

高校人国記

県立広島工業高校(広島市南区)②

自主性と強い心 日本背負う礎に

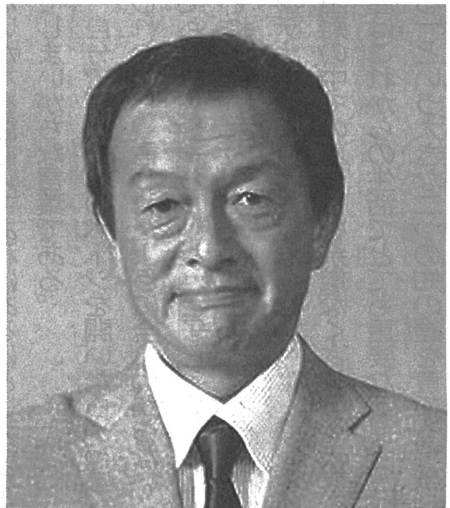
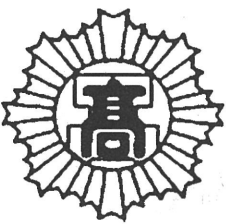


グラウンドでは野球部やサッカー部、ラグビー部が練習を重ねる

＜かつての卒業生(技術者・経済人、一時在籍者を含む)＞
 秦千代吉(1884~1944年)海軍技師として戦艦大和の砲塔設計に携わった▽伊藤琢郎(1884~1972年)伊藤久芳堂創業者。伝統工芸品「銅蟲」を再興した▽三好松吉(1885~1980年)電業社機械製作所創業者の1人▽織田史郎(1896~1986年)中小水力発電プラントメーカーのイームル工業創業者▽村尾時之助(1903~84年)東洋工業(現マツダ)副社長▽正坊地隆美(1910~2004年)日本コロムビア社長。日本レコード協会会長▽和田正雄(1913~97年)特殊印刷機製造の富士機械工業創業者▽今井廣(1913~90年)東洋観光グループ創業者▽筒井数三(1919~2017年)船舶用ポンプ製造のシンコー名誉会長で、同社を国内トップメーカーに育てた▽大谷照三(1926~2015年)菓子製造販売にしき堂創業者



メモ



日本サッカー名蹴会会長としてサッカー普及に取り組む金田喜稔

野球部が初の甲子園出場を果たした翌1976年の年明け、サッカー部は大阪市であった全国高校選手権に臨み、ベスト4に進出した。メンバーは、後に日産自動車黄金期のエースとして活躍する金田喜稔(66)▽元日本代表、サッカー解説者▽たちだった。金田は大会後、アジア・ユース大会の日本代表に選ばれた。「高校時代、指導者は答えをいわず、とにかく『考えろ』だった。ヒントもくれなかったが、自分で考える習慣がついた」。サッカー専門誌『ドリブル』などの研究を重ねた。

中央大を経て日産へ。91年に選手を引退したが、2年後のJリーグ開幕で「サッカー普及に貢献したい」と日産を退社しプロサッカー解説者となった。2010年、日本サッカー名蹴会を発足させ会長に就任。自ら大人向けのサッカー教室などを開き、普及に力を注ぐ。

先の選手権に出場した部員の多くが、その後もサッカーに関わった。フリーキックの名手として知られ、昨年秋に日本サッカー殿堂入りした元日本代表の木村和司(62)▽サッカー解説者▽は明治大から日産に入り、金田と合流。Jリーグ発足でプロとなり、引退後の10、11年は横浜F・マリノスの監督を務めた。

石崎信弘(63)は東京農業大、東芝とサッカーを続け、ことし2月からJ3カターレ富山の監督。選手権時に1年だった猿沢茂(61)も大阪体育大、東洋工業(現マツダ)で続けた。13年からJリーグのマッチコミッショナー(試合管理責任者)を務める。1946年に生まれたサッカー部は70年

指導者は答えをいわず。自分で考える習慣ついた

前後に県内で頭角を現した。71年の全国高校総体に出場し準優勝したメンバーの1人、楚輪司(66)は「技術的には低くても皆が一丸となれば勝てる」と確信した。社会人でも続け、国体の広島県成年チーム監督も務めた。

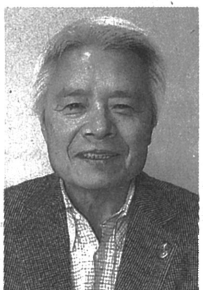
松井真弥(49)は立正大時代のけがで選手からトレーナーへ。2010年まで10年間、スペイン1部リーグで働いた。昨年からは3今治のスペイン人監督の通訳を務めている。



結城治男

女子サッカーの指導者もいる。東京農業大を経てフジタ(現湘南)でプレーした結城治男(68)は現在、女子サッカー・アンジュヴィオレ広島の監督兼ゼネラルマネジャー。アマチュア12チームが参加し今季スタートする女子リーグ1部で「ファンとのふれあいイベントにより力を入れ、女子サッカーの魅力伝えていきたい」と意欲を燃やす。19年までレノファ山口でアカデミーディレクターを務めた猿沢茂(51)は、シエフ千葉レディースの監督として今季始まる女子プロWEリーグに挑む。

「花園」への出場のほか、千葉国体(1973年)優勝など全国で活躍したのがラグビー部だ。つくったのは母校卒業後に社会人ラグビーを経験した清原弘(83)。教師として赴任した60年、同好会でスタート。「最初は弱かったが、合言葉は大きく花園を掲げた」



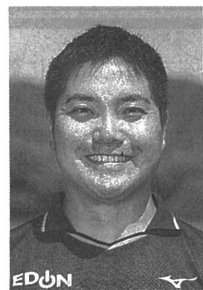
津山武雄

明治大でラグビー日本一も経験した元日本代表の津山武雄(67)は「原点は高校の夏合宿。その厳しさが、諦めない精神につながった」。通算で6年間、九州電力ラグビ

厳しい夏合宿 諦めない精神につながった

一部監督も務め、全国社会人大会でベスト4入り。社業では業務本部副部長などを歴任し昨年6月まで関連会社の九州メンテナンス社長を務めた。

津山の同期である谷本一(67)は日本体育大を卒業し、体育教師としてUターン。赴任した安芸南高(安芸区)でラグビー部をつくった。同好会を含め4年目の96年、「花園」を実現、以来計5回の出場を果たした。



菊地栄樹

アーチエリー部は五輪選手を生み出した。ロンドン五輪(2012年)に出場し、東京五輪出場を目指すのが、菊地栄樹(35)▽エディオン。3年の時、全国高校総体に出場し個人で優勝、近畿大へ。エディオンでもアーチエリーを続け世界大会を経験、「メンタルの大切さ」に気づいた。東京五輪最終選考会は今年20、21日。「集大成にしたい」と決意を込めた。シドニー(00年)、アテネ(04年)の西五輪に出場した浜野裕二(40)はエディオン社員から体育教師に転身し、昨年春から母校アーチエリー部顧問を務める。

弓道では、59歳で広島県の国体強化選手になった岡本雅生(63)。高校3年の三重国体決勝で惜敗したりベンジとして55歳から弓道を再開し、19年の国体では3人一組の県代表の1人として出場。成年男子遠的で3位となった。くしくも今年の国体は三重。「出場し優勝したい」と力を込めた。

敬称略 (編集委員・杉本真)

次回は26日に掲載します。

「高校人国記」は広島、山口両県を中心に回って、高校ごとに話題の卒業生を紹介していきます。各校の情報をメールなどでお寄せください。宛先は〒730-8677広島市中区千橋町7の1、中国新聞編集局「高校人国記」係。メールは、bokou@chugoku-np.co.jp